ZENOAH

# ゼノアローンモア

# 自走式

# ZLM530α

# 取扱説明書

## ⚠ 注　意

●取扱説明書本文中に出てくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
●本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
●取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。

【販売店様へ】
本製品納品の際には納品前点検を行い、お客様から商品受領書をお受け取り後、
①メーカー控えを専用封筒にてご返送願います。

株式会社　ゼノア

# 目　次


項　目　　頁

《はじめに》・・・

## 《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございました。

この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取扱い方法と簡単なお手入れ方法について説明してあります。

ご使用の前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十分理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。

又、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようご活用下さい。

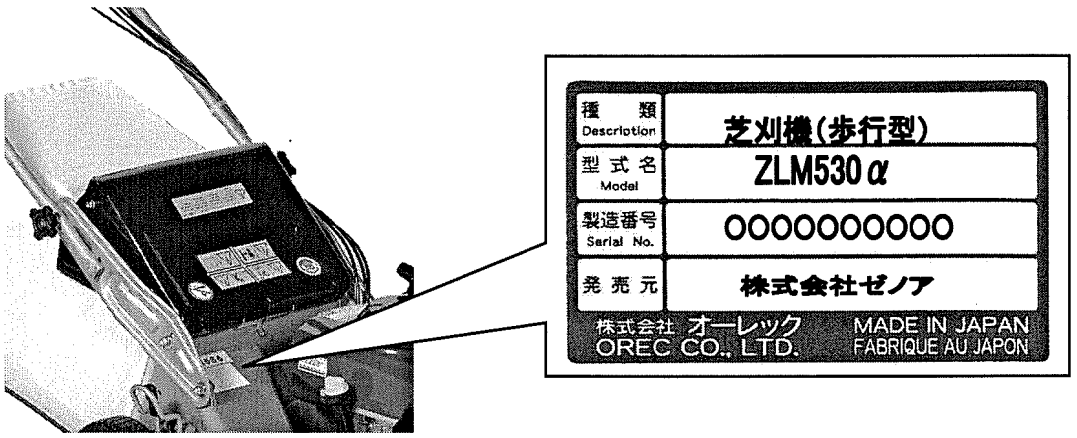
尚、品質・性能向上及びその他の事情による部品等の変更で、お手元の製品と本書の内容が一部一致しない場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

## 《本製品の規制について》

本製品は、公園・グランド・工場・道路緑地帯等の落ち葉清掃を主目的として開発しておりますので、それ以外の用途には使用しないで下さい。この場合には保証の対象外となる場合があります。

## 《保証とサービスについて》

本製品の保証期間は、購入後１ケ年間、又は５０使用時間(専業としての使用については６ケ月間、もしくは５０使用時間)の内どちらか早い時点で到達した方となっております。ご使用中の事故・ご不審な点及びサービスに関するご用命は、お買い上げ頂いた販売店又は当社営業所までお気軽にご相談下さい。その際、**『商品型式名と製造番号・搭載エンジンの型式名』**を併せてご連絡下さい。




「取扱説明書」に記載してある適正な点検・整備を怠った場合、及び仕様を超えた使用・改造等によっての故障・事故については、保証の対象外となります。

◎この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後８年と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合もあります。又、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただく場合もあります。

## 《定義とシンボルマークについて》

本書では、危険度の高さ(又は事故の大きさ)に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従って下さい。

| シンボルマーク | 定　　義 |
|---|---|
| ⚠ 危 険 | その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。 |
| ⚠ 警 告 | その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。 |
| ⚠ 注 意 | その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。また、遵守又は矯正しないと、製品自体に損傷を与えるものも示します。 |
| 参 考； | 操作、保守において知っておくと便利な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項を示します。 |

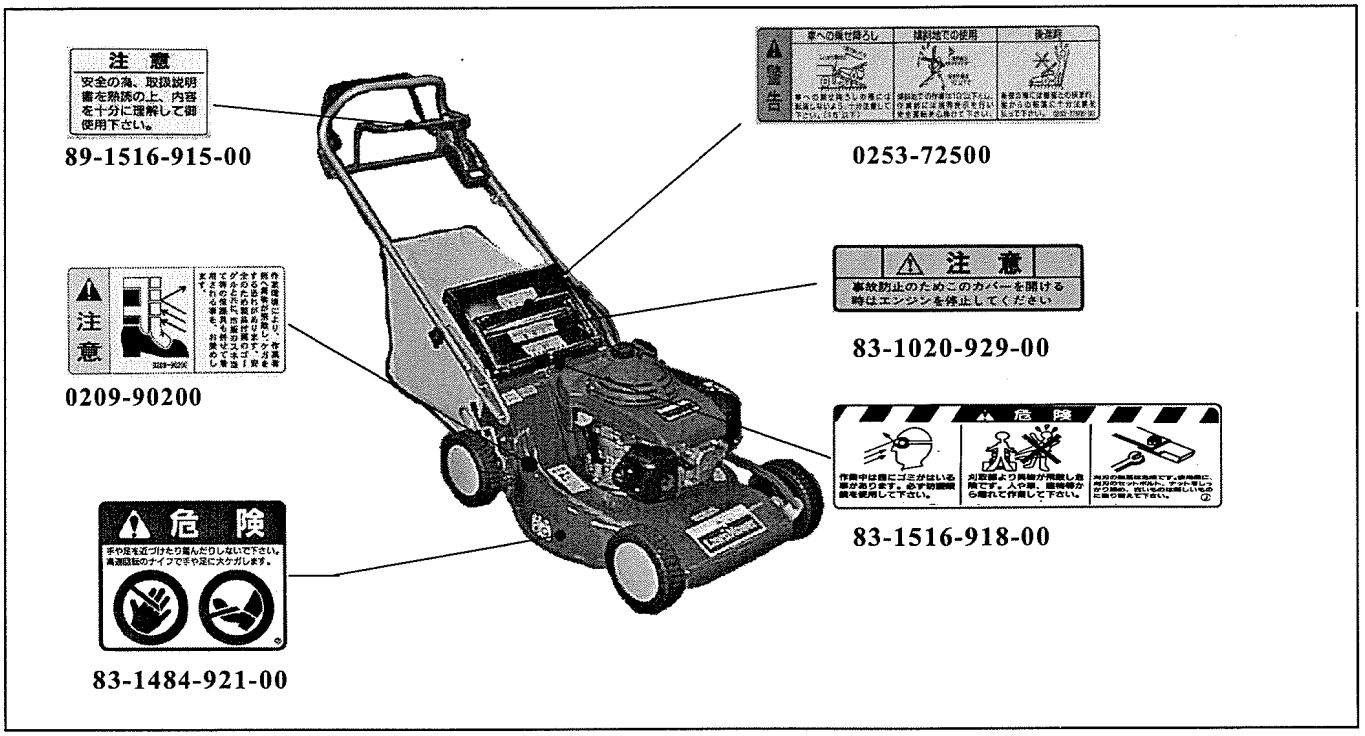
## 《安全に作業をするために》 …重要危険項目…

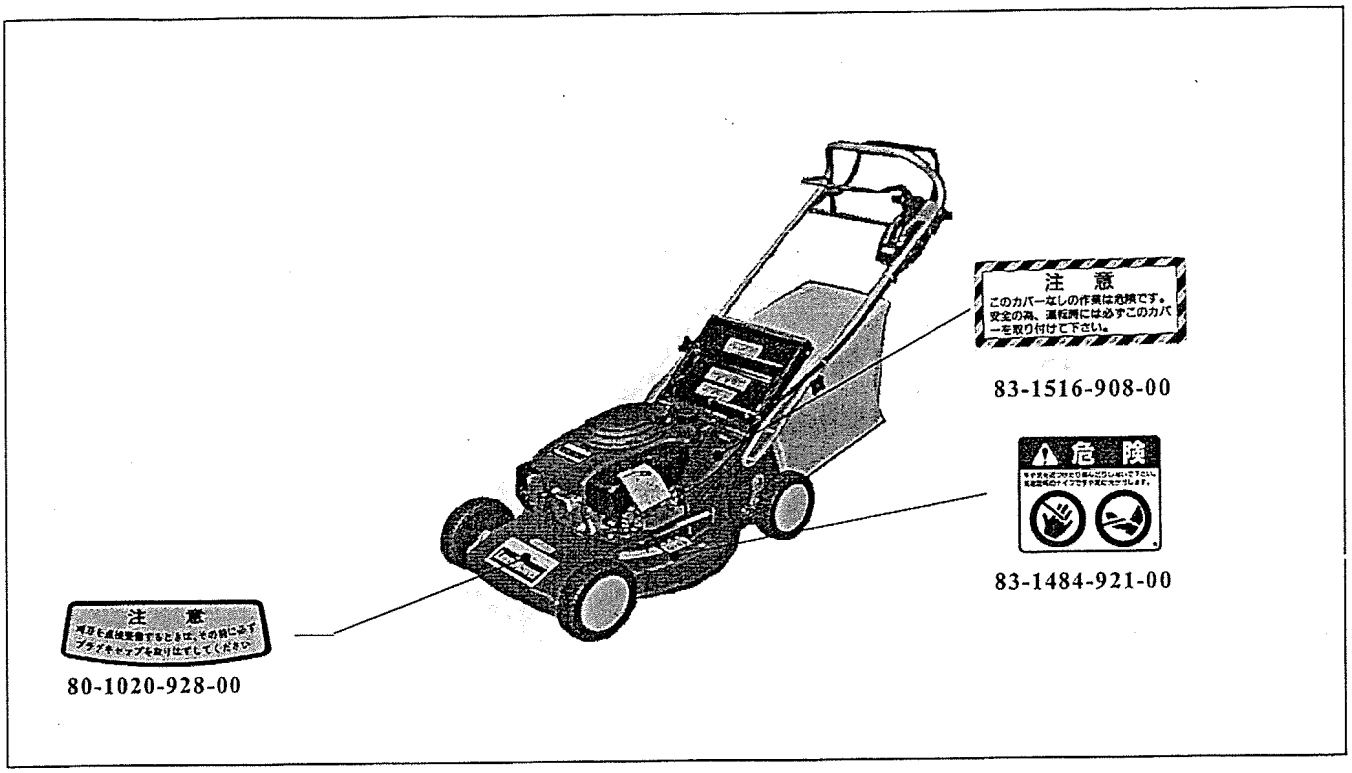
### （１）警告表示マーク

・以下の危険表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選されており、本体に貼付されています。ご使用の前に必ずお読みいただき、十分理解して必ず守って下さい。

●…危険表示マークが見えにくくなった場合には、貼り変えるなどして常に明確に識別できるようにしておいて下さい。　〈23 頁…消耗品明細　頁参照〉

●…本機はガソリンを燃料としており、作業中はもちろん機械のそばでのくわえたばこや焚き火等の裸火照明は引火の危険がありますので絶対にしないで下さい。






（２）作業前の注意

・本機の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。

・所有者以外の人は使用しないで下さい。

・過労、病気、薬物の影響、その他の影響により正常な運転操作が出来ない時には作業を控えて下さい。又、酒気を帯びた人、妊婦、若年者、未熟練者も作業をしないで下さい。

⚠ 機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴や帽子又は、ヘルメット、防護眼鏡等を必ず使用して下さい。

・作業を開始するときには、周囲に人や動物、車両等が無いことを確認し、作業中は半径１０m以内にこれらのものを近付けないで下さい。

⚠ 安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は、非常に危険です。事故防止のためこれらのカバー類、部品は必ず装着した状態で使用して下さい。

・必ず、タイヤ取付けボルトが確実に締まっているか点検し、緩んでいるときは、しっかり締めて下さい。

⚠ ナイフの脱落は危険です。ナイフのセットボルト・ナットをしっかり締めて下さい。又、古いものは新しいものに取換えて下さい。

⚠ ナイフ交換のための開閉カバーがあるものは、開いたままの使用は危険です。必ず閉めた状態で使用して下さい。

⚠ 小石やその他の異物は事前に取り除き、障害物はその位置を確認した後に目印となる物をつけた後で作業を始めて下さい。又このような圃場では、安全のために通常よりも高刈りで作業を行って下さい。ナイフが欠けたり石等の異物が飛散し危険です。

⚠ 排気ガスによる中毒防止のため、屋内では使用しないで下さい。

・転落防止のため、川や崖に向かっての作業はしないで下さい。
・１０°以上の勾配での傾斜地作業や、トラック搭載用ブリッジの勾配が１５°をこえると危険です。安全作業のため、これらの勾配角度未満でご使用ください。
⚠ 斜面で不要に走行クラッチを切ったり、変速レバーを中立にすると暴走し危険です。斜面では、これらの操作をしないで下さい。
・平坦部と傾斜部との境目（路肩）を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性があります。十分に安全な平坦地を走行して下さい。
・斜面で本機の山側にいると足を滑らせた場合、本機の下側に体が入ることがあり危険です。特に湿った斜面は滑りやすく危険です。斜面では本機の山側にはいない様にして下さい。

暗い時、視界が悪いときの使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できないときには使用しないで下さい。

・ 安全作業の障害となるような本機の改造(夜間作業用のライトの装着、ナイフカバーの一部切断等)は絶対にしないで下さい。これらの改造に起因する事故、及び不具合に関しては、一切の責任を負いかねます。

## （３） 燃料給油時の注意

・給油は必ず燃料タンクの油面上限マーク以下にし、万一多く入れ過ぎたときは、マーク以下になるまで抜き取り、又周辺にこぼれた燃料は必ずふき取って下さい。
⚠火傷や火災の危険がありますので給油はマフラの温度が十分下がってから行って下さい。

## （４） 始動時の注意

・エンジンの回りや排気ガス方向には、燃えやすいものを近付けないで下さい。
・走行クラッチ、ナイフクラッチを「㊀」位置にしてから始動して下さい。
・回りに人や動物や車両等がいない事を確認し、また周囲の安全を確認してから始動して下さい。

## （５） 積み降ろし時の注意

〈14 頁…参照〉

・平坦で安全な場所を選び、トラックが動き出さないようにエンジンを止め、サイドブレーキを引いて、確実に駐車をして下さい。
・丈夫なブリッジを確実に掛け、ゆるい勾配でエンジン回転を下げ、積み降ろし共に前進「 」位置でゆっくり行い、その他の位置には絶対入れないで下さい。

## （６） 作業中の注意

・安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないで下さい。

⚠ 排気マフラは高温となります。火傷をしないよう手等を近づけないで下さい。

・バックする時は、子供や動物がいない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖からの転落等がない様足場に注意して下さい。(該当製品)

・ベルトスリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時は、すぐにエンジンを停止して点検・修理して下さい。

⚠ 刈取部全周にわたり、石等の異物が飛散し大変危険です。人や車、建物などから離れて十分ご注意の上作業して下さい。必要に応じてスネ当て等の保護具を着用ください。

⚠ 回転部分は危険です。とくにナイフカバー内は危険ですので、運転中は身体を近付けないで下さい。

⚠ 冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まりはエンジンの焼付きや火災の原因です。外側のみならず、内側もこまめに清掃して下さい。又、エアクリーナ内部の清掃も同時に行って下さい。

⚠ 石等、危険物の多い場所では事前に石等の異物は取り除き、障害物の位置を確認した後に目印等をつけ、安全のため通常よりも高刈りで作業をして下さい。ナイフが欠けたり、石が手前に飛んできたりして危険です。

・作業中、石・木株等に当たったときは、直ちにエンジンを停止し、ナイフの回転が停止した事を確認後、欠けや曲がりの有無を調べて必要であれば修正・交換をして下さい。

## （７） 作業終了後の注意

・本機より離れる時は、必ずエンジンを止めて下さい。キースイッチがある物は、キーを抜いておいて下さい。(該当製品)

・安全のため、燃料コックは必ず閉めて下さい。

## （８） 点検・整備時の注意

・機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止して下さい。

⚠ ベルトやナイフ部の安全カバー、及び飛散防止用のカバーの破損は危険です。破損した場合は使用前に必ず修理しておいて下さい。

・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けて下さい。

・ナイフセットボルトは安全のため、ナイフ交換の際には一緒に新品と交換して下さい。

⚠ ゴムなどの燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。３年ごと、又傷んだ時には、締め付けバンドとともに新品と交換して下さい。

・走行クラッチ・ナイフクラッチ・ブレーキ・スロットル・ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行って下さい。

・点検・整備を行う場合、又シートをかける場合は火傷や火災を防ぐため、マフラやエンジン本体の冷却状態を十分確認したうえで行って下さい。

・ナイフブレーキ、走行（駐車）ブレーキのあるものについては安全のため、使用時間が１００時間に到達しない時点で交換して下さい。

## （８） 点検 - 整備時の注意

・機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止し、点火プラグキャップを点火プラグから外して下さい。

> ⚠ 注意：
> 本機を傾ける時は、ハンドル側より見て右側を下にするか、前側を上に上げ、エンジン・キャブレター側を必ず上にして下さい。逆に傾けると、キャブレターの中にオイルが流入し、始動しなくなります。

⚠ ミッション やナイフ部の安全カバー、及び飛散防止用のカバーの破損は危険です。破損した場合は使用前に必ず修理しておいて下さい。

・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けて下さい。

・ナイフセットボルトは安全のため、ナイフ交換の際には一緒に新品と交換して下さい。

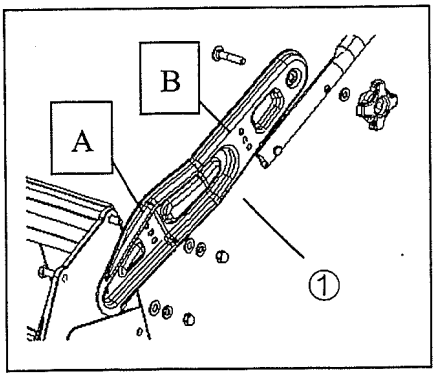
⚠ ゴムなどの燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。３年ごと、又傷んだ時には、締め付けバンドとともに新品と交換して下さい。

・走行クラッチ・ナイフクラッチ・ブレーキ・スロットル・ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行って下さい。

・点検・整備を行う場合、又シートをかける場合は火傷や火災を防ぐため、マフラーやエンジン本体の冷却状態を十分確認したうえで行って下さい。

・ナイフブレーキについては安全のため、使用時間が１００時間に到達しない時点で交換して下さい。

## 《 解梱後の組立てについて 》



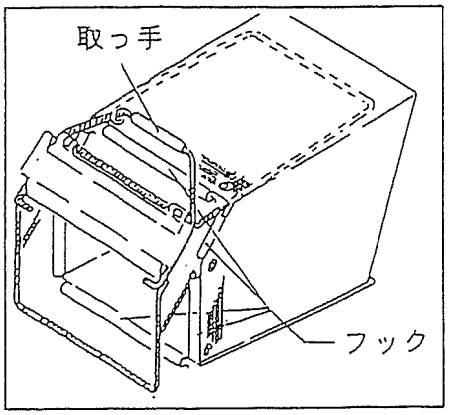

### ハンドルの組立て

（１）①のハンドル取付板を本体に取付けます。

（２）ハンドル取付板にハンドルを取付けます。

・ハンドル先端のピンをⒷに差し込み、角根ボルトを内側より通し座金・ノブナットで固定します。

・ⒶとⒷの穴の位置で、ハンドルの高さを調整して下さい。




### 収草バッグの組み立て

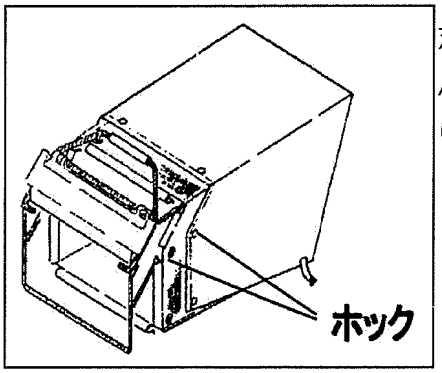
（１）収草バッグの中にバッグフレームを入れて下さい。

（２）収草バッグのフックをバッグフレームに掛けて下さい。

※注意：

フックを掛ける際に、フレームの取っ手をバッグの上に出して下さい。

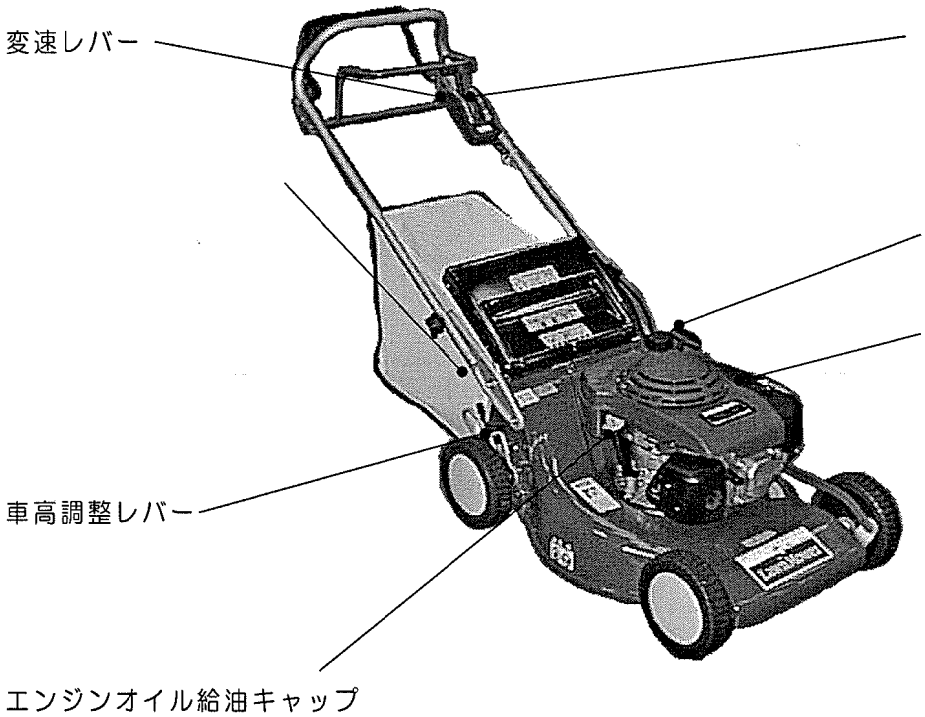
《バックカバーの取付け》

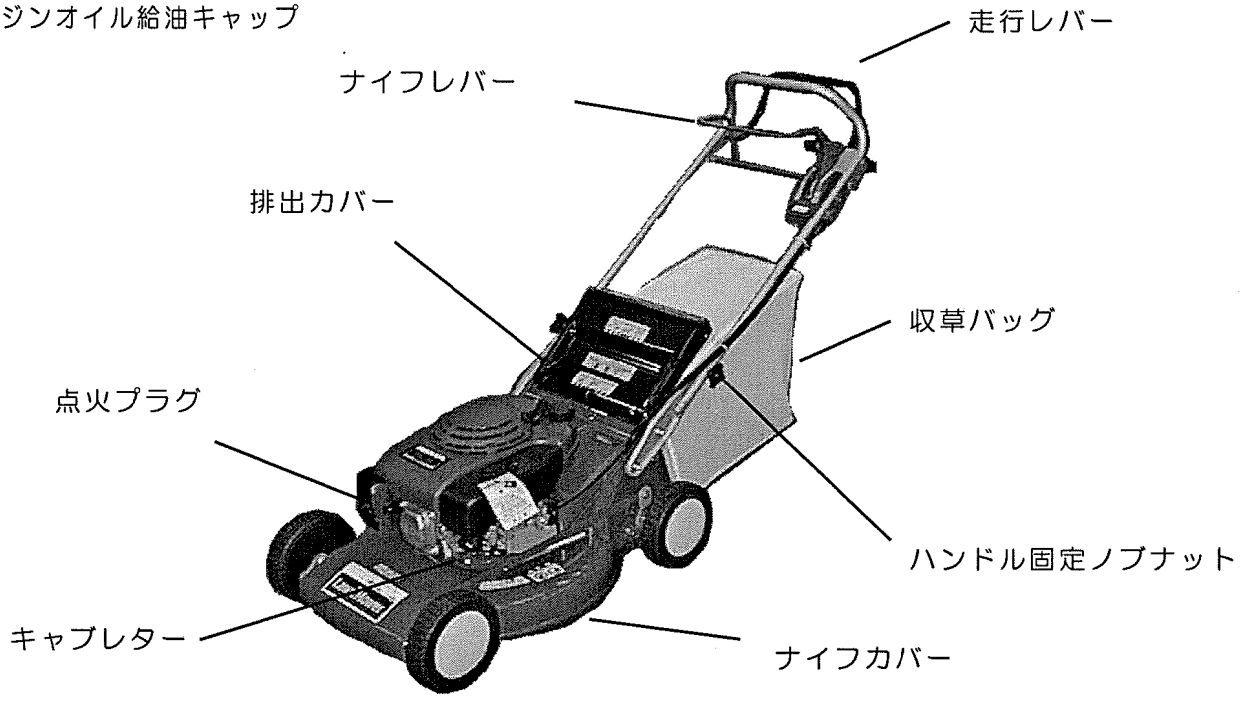



芝が少ないところ、土埃があるところで作業する時に、バックカバーを取付けると上半身にかかる埃が少なくなります。

・収草バックのホックに、バックカバーのホックを止めて下さい。
・収草バック後の取ってをつかむ時は、バックカバー後の切り込みより取ってを差し込んで下さい。

《各部の名称》

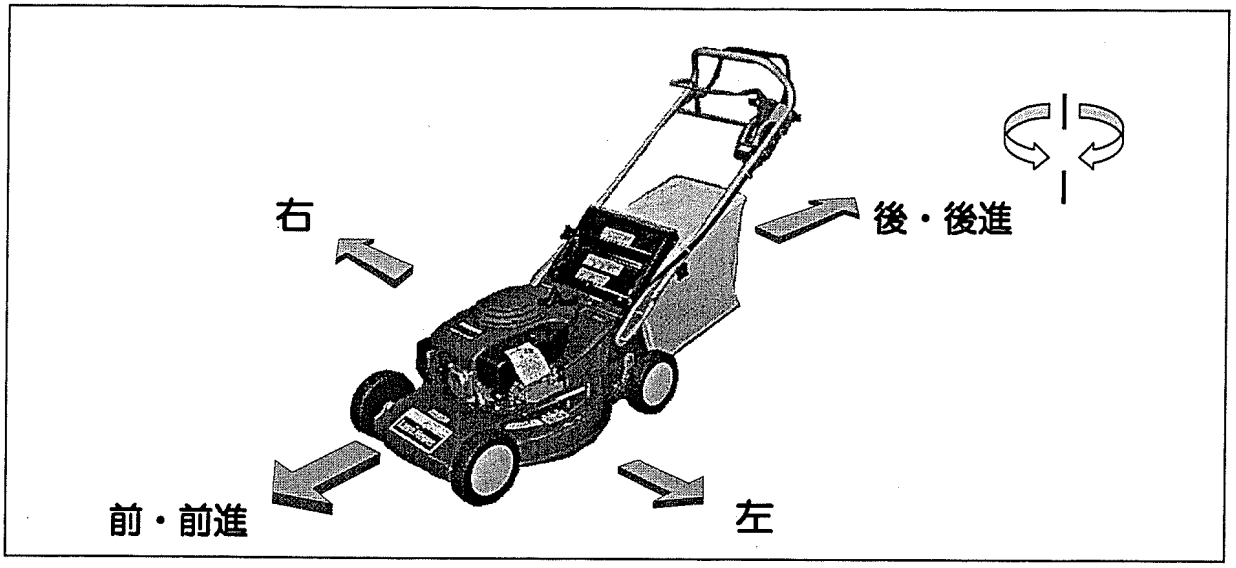


《方向について…》

本機の前後左右は、下図のように作業者から見た方向で表します。

本文中の、「前進」・「後進」についても、作業者からみた方向で表します。




《各部のはたらき》

①走行レバー

エンジンからミッションへの動力を断続させます。レバーを手前へ倒しハンドルと一緒に握ると「㊓」位置の状態、離すと「㊒」位置の状態になるデッドマン式クラッチレバーを採用しています。

②ナイフレバー

エンジンからナイフへの動力を断続させます。レバーを手元へ倒しハンドルと一緒に握ると「㊓」位置の状態、離すと「㊒」位置の状態になるデッドマン式クラッチレバーを採用しています。

③変速レバー

走行速度の選択時に操作します。変速は前進のみで「①」、「②」の２段です。

変速は走行レバーから手を離し、本機を停止させた後操作して下さい。

「①」位置ではゆっくりと、「②」位置ではスピーディーな前進が行えます。

⚠ 注意：変速レバーの操作は走行レバーを「㊒」位置にして行って下さい。

走行レバーを握ったまま変速レバーの操作を行うと、ミッション内部のギヤが破損する恐れがあります。

④刈高調整レバー

刈高さの調整を行います。調整は５段あります。

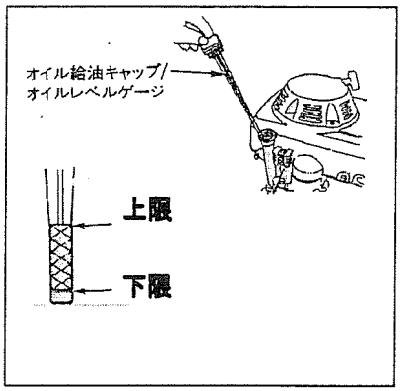
⑤ハンドル固定ノブナット

ハンドルの高さを調整し、固定します。

⑥スロットルレバー

エンジンの始動、停止、回転数の増減を調整します。

《エンジンをかける前に点検しましょう》




## エンジンオイルの点検

エンジンオイルを確認して下さい。

◎給油栓がオイルゲージを兼用しています。

オイルゲージの上と下の目盛線の間にオイルがなければ上の目盛線までオイルが付くようにエンジンオイルを補給して下さい。

参考；

・エンジンは水平にして給油栓はねじ込まずに差し込んで点検して下さい。

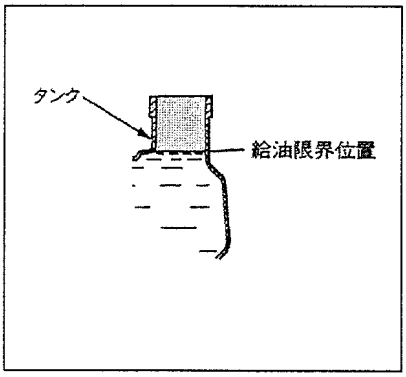
・使用するエンジンオイルはＳＤ級以上の良質の新しいオイルを使用し、気温によって次のように使い分けて下さい。

| | |
|---|---|
| 夏季（１０℃以上） | ＳＡＥ３０，ＳＡＥ１０Ｗ－３０，又はＳＡＥ４０ |
| 冬季（１０℃以下） | ＳＡＥ５Ｗ２０，又はＳＡＥ１０Ｗ－３０ |

### ⚠ 警告

●燃料を入れる時には必ずエンジンを停止してから行って下さい。

●エンジンとマフラが冷えた後、入れ過ぎて燃料をこぼさないように注意し、もしこぼれた場合にはきれいにふき取って下さい。




## 燃料の点検と補給

燃料はレギュラーガソリンを入れて下さい。

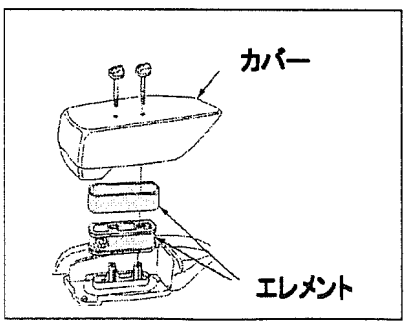
〈燃料タンク容量は、2.0 リットルです。〉

・燃料補給後は給油キャップを確実に締め付けて下さい。

傾斜地での使用は、給油口内の規定油面上限以下で使用して下さい。

### ⚠ 注意

●燃料は常に新しいもの使用して下さい。古い燃料又は長期間(３ケ月以上)ポリタンクに保管した燃料は、エンジンの不調や破損の原因となることがあります。




## エアークリナーの点検

ネジを外し、エアークリナーカバーを外します.

エアークリナーのエレメントの汚れを点検します。

汚れがひどい場合は、清掃してください。

〈清掃の方法は、19 頁参照〉

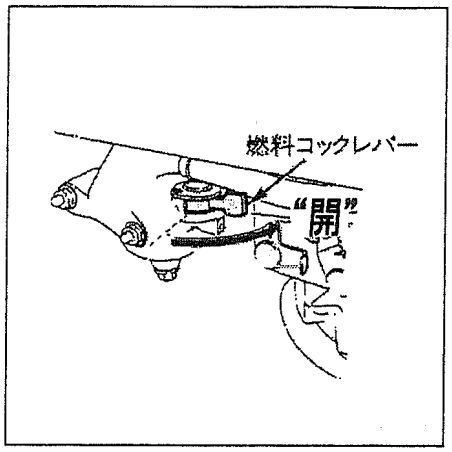
カバーを取付け、確実にネジをしめてください。

## 《運転操作のしかた》

### 刈高さの調整

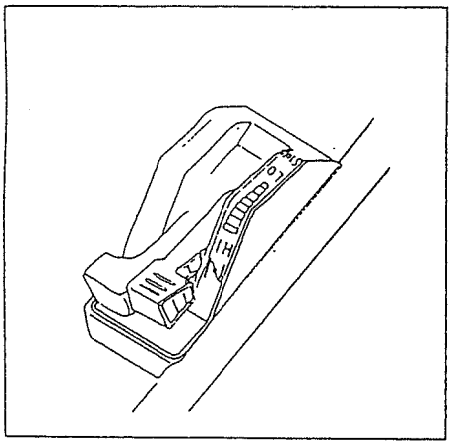
刈高さ調整レバーにより５段階調整できます。

伸びた芝を刈り取るときは、最初刈取り高さをたかくして刈取り、次に刈り取りたい高さまで下げて刈り取ってください。



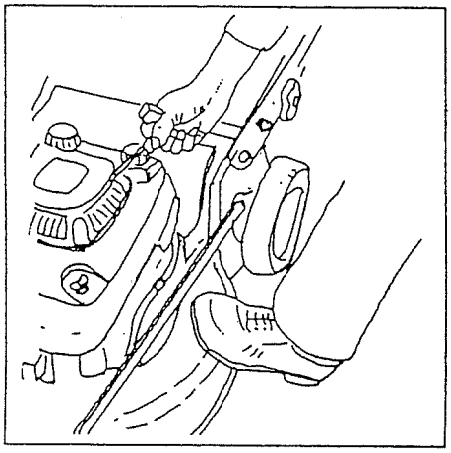

### エンジン始動

①燃料コックを「開」位置にして下さい。



②スロットルレバーを『HI』位置にして下さい

参考；エンジンが暖まっている時は、『ＨＩ』の位置で始動できます.



③ナイフカバーに片足をのせて、芝刈り機が動かないようにしっかり押さえ付け、リコイルグリップをゆっくり引いて、圧縮を感じる位置から一旦戻した後、勢いよく引っ張って下さい。

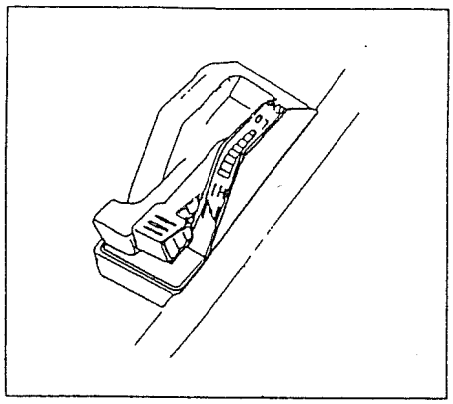
**⚠ 注意：**

リコイルグリップを引くときに、後方に人や障害物がないことを確認してください.

エンジンの始動後は、スタータノブは元の位置にゆっくりと戻して下さい。

④エンジン始動後は、スロットルレバーを『ＬＯ』位置でしばらく（3分程度)の暖機運転を行って下さい。暖機運転を行うことにより、エンジンの各部にオイルを行き渡らせ、エンジンの寿命をのばします。

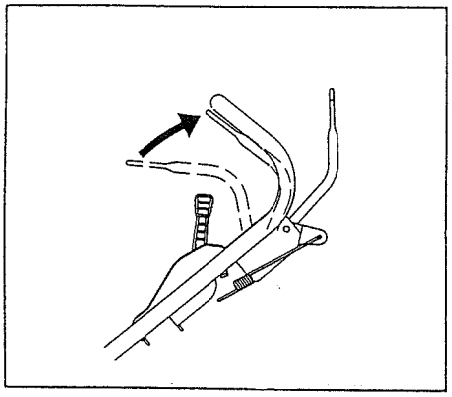
## 刈取り作業



① スロットルレバーを『ＨＩ』に合せます。

⚠ 注意：

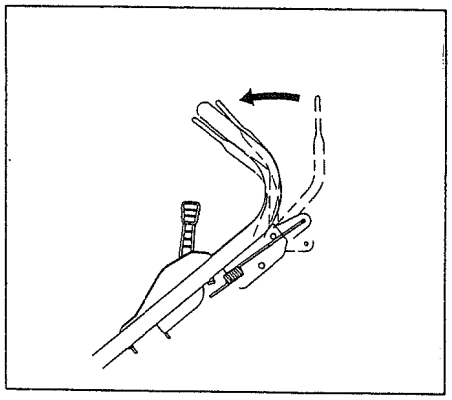
芝刈り機から離れるとき、かならずエンジンを停止して下さい。



②ナイフレバーを手元へ倒して、ナイフを回転させます。

⚠ 注意：

ナイフレバーをゆっくり倒すと半クラッチ状態になりクラッチの摩耗が早くなりますので、すばやく倒してください。



③ 走行レバーを手前へ倒して刈り取り作業を行います。

・ハンドルをしっかり握り、足元に十分注意して、作業を行ってください。

・芝の状態により速度を選んでください。

⚠ 注意：

速度を変更するときは、必ず走行レバーを『切』に戻し走行クラッチを切ってから変速レバーを操作してください。

## 方向変換

・方向変換するときは、ナイフレバー、走行レバーを『切り』にしてハンドルを押し下げ前輪を浮かし、後輪だけで回転してください。

## 斜面での刈り取り

・斜面での芝刈りは、上下方向ではなく水平(等高線)方向でおこなってください。

・斜面上での方向変換は、十分注意を払ってください。

⚠ 注意：

安全作業のため、１０度以上の勾配の傾斜地では作業をしないでください。

## 収草バッグの取付け・取外し

⚠ 危険：

収草バッグの取付け･取外しをおこなうときは、必ずエンジンを停止してください。物が飛び出し、ケガをすることがあります。

・収草バッグは、その都度きれいにしてください。
・収草バッグを取外したときは、必ず排出カバーを閉じてください。

## 作業終了後

・スロットルレバーを『STOP』にし、燃料コックを閉じてください。
・エンジンが冷えるまで時間をおいてください。
・各部分をよく清掃してください。

⚠ 注意

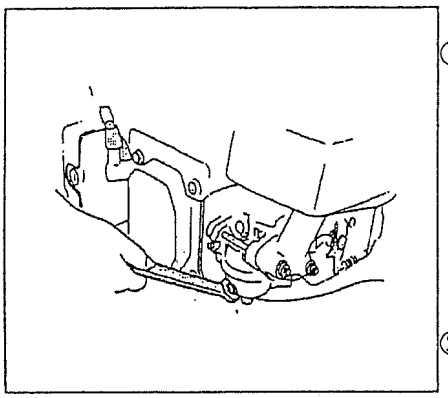
ナイフカバー内の清掃のため、本機を傾けるときは､右側を下にするか、前川を上に上げ、エンジンキャブレター側を上にしてください。逆に傾けるとキャブレターの中にオイルが流入し再始動しなくなります。

・清掃後は、屋根のある風通しの良い湿気が少ない場所に、本機にカバーをかけて保管してください。

## 《長期保管のしかた》

⚠ 危険：

- くわえタバコや裸火照明での作業禁止。
- 風通しの良い場所で行って下さい。
- 燃料タンク内のガソリンを抜く時は、エンジンとマフラーが冷えてから行って下さい。燃料を抜く時は火気厳禁。
- 抜いた燃料の取扱いは十分に注意して下さい。
- 本機を保管する場合には、固い平坦な場所で本機を水平にして下さい。



①本機を３０日以上使用しないときは、燃料変質による始動不良、又は運転不調にならないように燃料ドレンボルトを緩め気化器内燃料を排出すると共に、燃料コックより燃料タンク内の燃料を抜き、湿気のない場所を選んで保管して下さい。

②エンジン及び本機の外面をオイルを浸した布で清掃して下さい。

③各部の清掃を十分に行って下さい。特にリコイルスターター、エアークリーナー、マフラー、気化器付近やベルトカバー内に堆積した草やホコリをエアー吹き等できれいに取り除き、サビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布しておいて下さい。

☞‥草やホコリが堆積したまま作業を続けると草屑等による目詰まりでエンジンが過熱し、焼き付や､火災の原因にもなりかねません。

参考：ナイフカバー内に付着した草屑はこれが乾かない内にホース等で加圧した水で清掃を行うと比較的簡単に洗い落とすことができます。

☞‥このとき、エンジンの電装関係や気化器、エアークリーナー、マフラー排気口に水がかからないようにカバーをかける等して注意して下さい。エンジン始動不良の原因になります。

④屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平にして保管して下さい。

⑤本機にカバー等をかけてほこりがつかないようにして下さい。

## 《ナイフの点検・交換・修正のしかた》

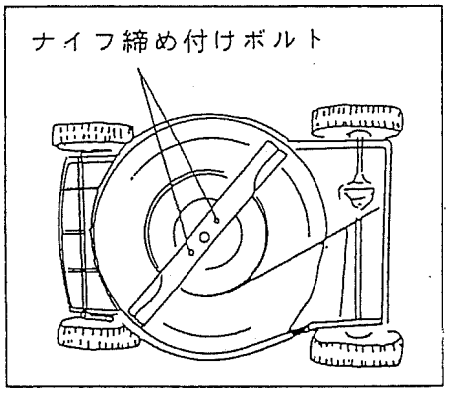
### ナイフの点検・交換

◎ 作業を安全に行うために、ナイフの作業前点検を行って下さい。

⚠ 危険: 機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止し、点火プラグキャップを点火プラグから外して下さい。

⚠ 注意:

- 本機を傾ける時は、ハンドル側より見て右側を下にするか、前側を上に上げ、エンジン・キャブレター側を必ず上にして下さい。逆に傾けると、キャブレターの中にオイルが流入し、始動しなくなります。また、ガソリンがこぼれ危険です。
- ケガを避けるため、点検・交換は丈夫な手袋をつけるか、又は布切れでナイフの先端を包んで行って下さい。
- 作業時に縁石や木の根等にナイフが当たり、曲がりや欠損が生じていないか点検して下さい。異常が発見された場合には新品と交換して下さい。
- ナイフの摩耗、割れ、曲がり等を放置すると、ナイフが折損して飛び出し、作業者や付近にいる人に当ったりして、重大な人身事故を招くことがあります。
- ナイフの交換・修正等の作業は適切な工具と整備技術をおもちの方が実施して下さい。
- ナイフ締め付けボルトも摩耗します。ナイフを交換する際には必ずナイフ締め付けボルトも同時に交換するようにし、決して他のボルトで代用しないで下さい。
- 作業をする時は手を滑らさないように十分注意して下さい。



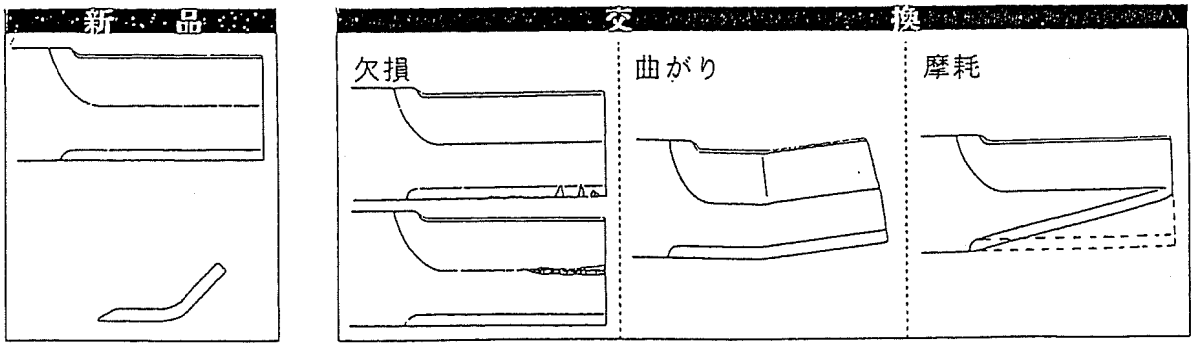

①エンジンを停止し、念のため点火プラグのキャップを外して下さい。

②本機をハンドル側から見て右側を下に倒すか、前側を上に上げて下さい。

④ナイフの割れ、曲り、摩耗を点検して下さい。
下図の様に異常な状態になっていたら交換して下さい

③ナイフ締め付けボルトが緩んでいないか点検して下さい。

★交換の際には元のとおりにしっかりとナイフ締め付けボルトを締めつけて下さい。
〈ナイフは、二本のボルトで取り付けられています。〉

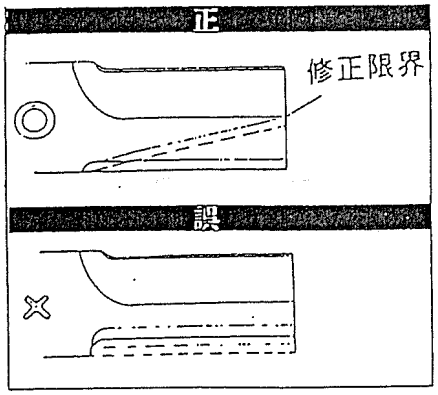



参考:

- 乾燥した土や砂を含んだ場所での使用はナイフの摩耗が早いため頻繁に点検して下さい。
- 予め予備のナイフをお買い求め頂き、手元におかれておくことをお奨めいたします。

## ナイフの修正

★修正を行うとナイフの初期の性能が損なわれることをご承知おき下さい。★



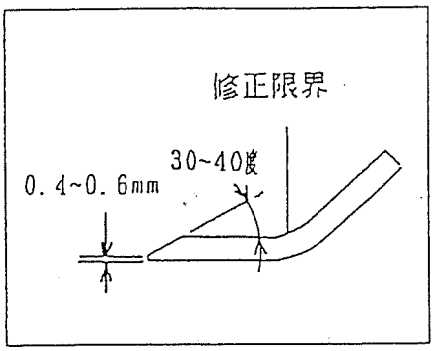

①ナイフを取り外して下さい。〈15頁参照〉

②以下の要領でナイフを研摩して下さい。

・ナイフを研摩するときは、ナイフをしっかりと保持して下さい。

・ナイフを元の刃と平行に研摩すると、破損の原因となります。
左図の様に研摩して下さい。

・ナイフのバランスを崩さないように使用する両側の刃を同量研摩して下さい。

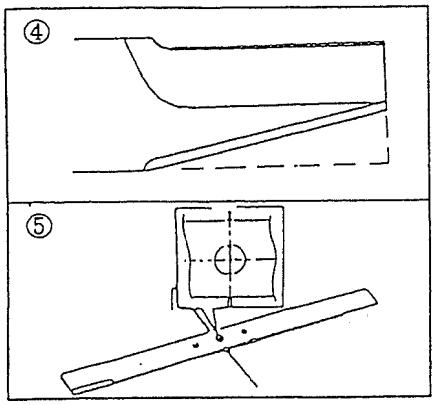



③刃先には0.1~0.6mm程度の平らな部分を残しておいて下さい。カミソリの様に刃先をとがらせると、すぐに刃先が摩耗し切れ味が鈍ります。

参考：
グラインダー等で研摩する際には、水をかけながらナイフ自体の温度を上げないようにして少しずつ研摩して下さい。

☞…ナイフの温度が上がり過ぎると熱変化により摩耗速度が早くなります。

> ⚠ 危険：
> ・グラインダーを使用する際には必ず帽子、厚手の手袋、防護メガネ等をつけて安全に注意して行って下さい。




④刃先が左図の様になったら、新しいナイフと交換して下さい。

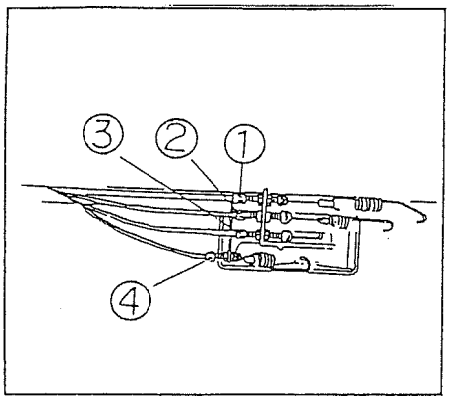
⑤研摩後、金ノコの刃、定規等の薄板の上に穴の中心を合わせ、ナイフのバランスをテストして下さい。左右どちらかがわずかでも下がったら、下がった方の刃の部分を再度研摩して下さい。
バランスが取れない場合は、ナイフを交換して下さい。

⑥ナイフを元のとおりしっかりと取り付けて下さい。

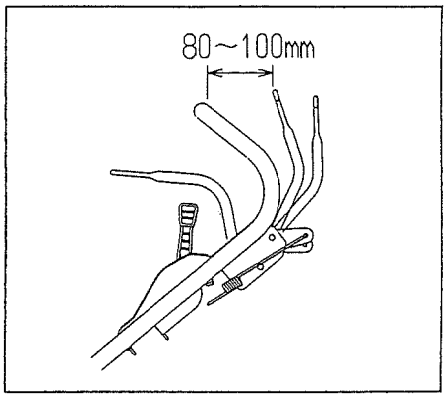
> ⚠ 注意：
> ナイフのバランスが取れていないと、異常振動が生じ、本機を破損する恐れがあります。

## 《ワイヤの調整》

### ワイヤの組み付け位置



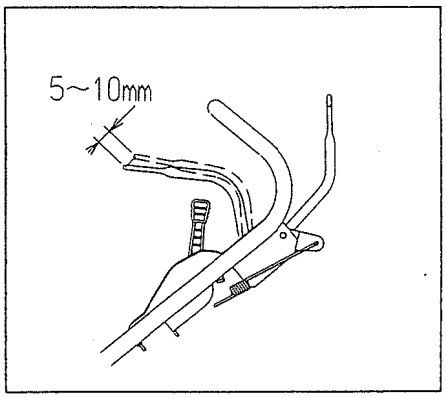

① 走行ワイヤ
② ナイフワイヤ
③ スロットルワイヤ
④ 変速ワイヤ




① 走行ワイヤ

・走行レバーとハンドルの感覚が 80～100mm のところで走行クラッチが『入』になるように、アジャストネジを調整し、ロックナットを確実に締め付けてください。

・エンジンを始動し、走行レバーを操作して、走行・停止が正しく作動することを確認してください。



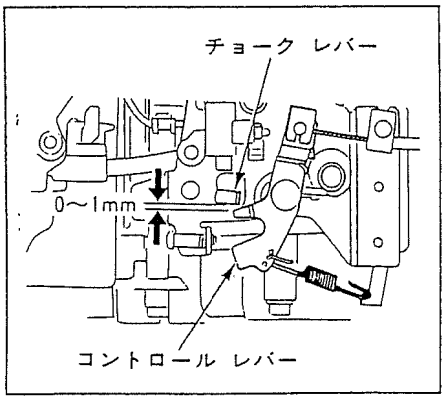

② ナイフワイヤ

・ナイフレバーの遊びが 5～10mm あるようにアジャストネジを調整し、確実に締め付けてください。

・エンジンを始動し、ナイフレバーを操作して、ナイフが正しく回転･停止することを確認してください。

⚠ 注意

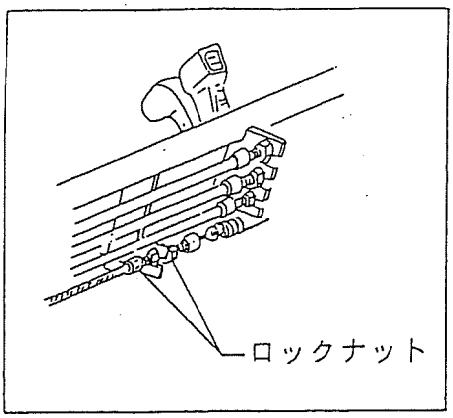
半クラッチ、半ブレーキにならないようにしてください。




③ スロットルワイヤ

・スロットルレバーを『ＨＩ』に合せ、エンジンのコントロールレバーがチョークレバーに接する手前の位置になるようにアジャストネジを調整し、ロックナットを確に締め付けてください。

・エンジンを始動し、スロットルレバーを操作して、チョーク・ＨＩ・ＬＯ・停止でエンジンが正しく作動することを確認してください。




④ 変速ワイヤ

・変速ワイヤに戻しバネが組み込まれていますので変速レバーには遊びがありません。ワイヤを軽く引っ張って組み付けてください。

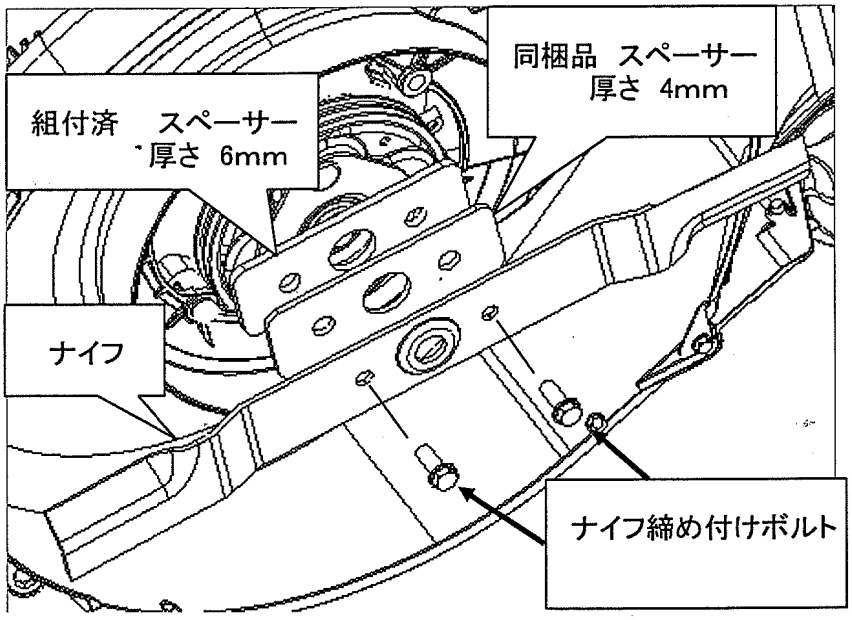
・エンジンを始動し、変速レバーを操作して、高速、低速で走行することを確認してください。

⚠ 注意：

変速レバーは、走行中に操作しないでください。

## ≪スペーサー装着による刈高さ調整≫

通常よりも低く刈りたい場合は以下のようにスペーサー(同梱品)を装着してご使用ください




ナイフ締め付けボルトをはずして、図のように**組付済スペーサーとナイフの間に同梱品スペーサー**をはさみこんで取り付けます。

取付の際は、14ページ'ナイフの点検・交換・修正のしかた'の注意事項を確認して行って下さい。

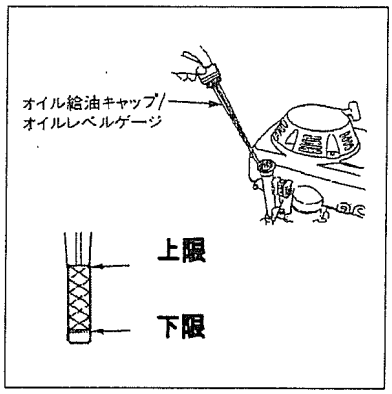
※刈高さが低くなりますので、未着用時に比べて刈取性能が落ちる場合があります。発生現象を25ページ'刈り取り性能診断'に従い適切な処置をして下さい。

⚠ナイフの位置が低くなりますので、スペーサー未着用時より石等の飛散物が増える可能性があります。使用時には未着用時以上に安全には十分注意して下さい。

参考: 刈高さ 通常 14～50mm スペーサー着用時 10～46mm

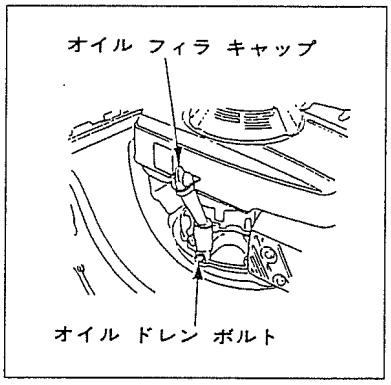
# 《エンジンの点検・整備・調整のしかた》

## エンジンオイルの点検・補給・交換




### 点検・補給

・毎日、もしくは８時間毎に〈９頁…エンジンをかける前に〉を参考にエンジンオイルの量、及び汚れを目視で点検し、規定量でない場合、及び汚れがひどい場合には、補給又は全量交換（下記参照）して下さい。
（使用するエンジンオイルの質及び量は、９頁参照）

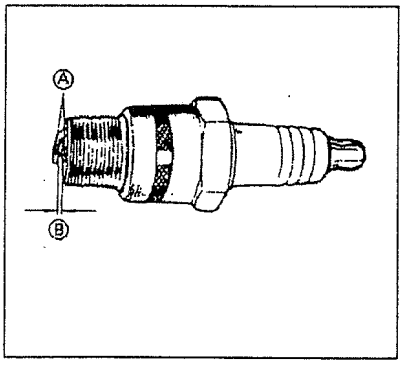



### 交　換

・初回は、５時間目、それ以降は５０時間運転ごとを目安にオイルを交換してください。
・オイル給油キャップを外し，オイルドレンボルトを外します。
・エンジンオイルを抜き取ります.
・オイルドレンボルトを確実に締め付ける.
・〈９頁…エンジンオイルの点検〉を参考に指定のエンジンオイルを規定量給油し、オイル給油キャップを確実に締め付けてください。
〈エンジンオイル容量：０．６５ﾘｯﾄﾙ〉

参考；エンジンオイルの交換は、暖機運転後、エンジンを停止し約５分以上経ってから火傷に注意して行ってください.

## 点火プラグの点検・調整のしかた

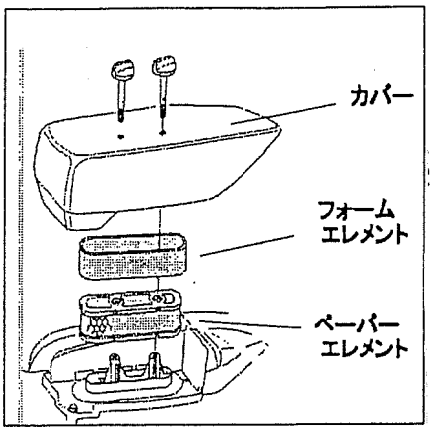



①プラグレンチで点火プラグを外し、電極部分Ⓐにカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取って下さい。
②中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換して下さい。
〈使用点火プラグは、21 頁の仕様書を参照〉
③点火プラグの電極隙間Ⓑを 0.7～0.8mm に調整して下さい。

参考；締め付け時は、初め手で軽くねじ込んでからプラグレンチを使用して下さい。初めからプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意して下さい。

## エアークリーナーの清掃のしかた

⚠ 危険：
エアークリーナーが目詰まりをすると出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇し、火災の原因となりますので必ず定期的に清掃して下さい。




①蝶ボルト　を外してカバーを外して下さい。
②ペーパーエレメント　は軽く叩くか、内部からエアー吹きしてホコリやゴミを落として下さい。
③フォームエレメント　は中性洗剤で洗浄後よく絞り、乾燥させて下さい。その後、新しいエンジンオイル（SAE10W 30相当）に浸し、固く絞って余分なオイルを振り落として下さい。
④ケース内部の汚れをウエス等でふき取り、元の通りに組み付けて下さい。

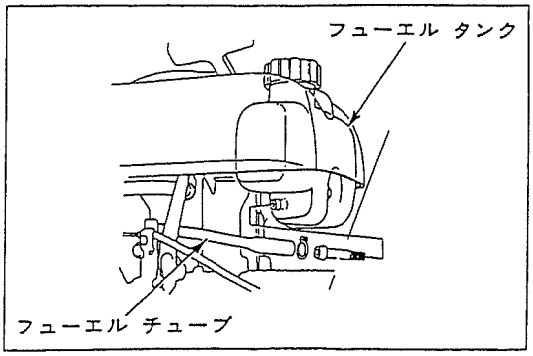
⚠ 注意：
- ペーパーエレメントの汚れがひどい場合は新品と交換するか、石鹸液で洗浄（振り洗い）した後、水洗いし良く乾かして下さい。
- 洗浄する場合、エレメントを強く引っ張ったり、もんだりしないで下さい。エレメントが破れます。
- ペーパーエレメントを叩く時にはろ紙を傷付けないように注意して下さい。
- ろ紙をブラシでこすらないで下さい。
- 乾燥させる時、熱風をあてるとペーパーエレメントの接着部が痛むときがあります。低めの温風で乾かして下さい。

☞エアークリーナーの清掃、交換時期について

| | 清掃 | 交換 |
|---|---|---|
| フォームエレメント | … ２５時間毎 | |
| ペーパーエレメント | … ５０時間毎 | ３００時間毎 |

☆チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するように心掛けて下さい。

## 燃料パイプの点検のしかた

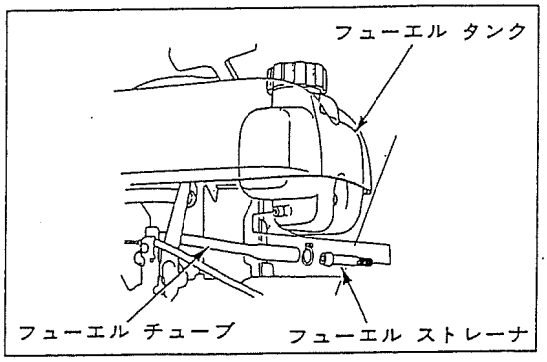



⚠ 危険：　たばこや裸火照明・火気厳禁

- 燃料パイプ　などのゴム製品は、使わなくても劣化します。締付けバンド　と共に３年ごと、または傷んだ時には新品と交換して下さい。
- パイプ類や締付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意して下さい。

⚠ 注意：
パイプ類の交換時にパイプ内にホコリやチリが入らないように注意して下さい。

## 燃料フィルターの清掃のしかた




⚠ 危険： たばこや裸火照明・火気厳禁

・５０時間使用ごとに燃料フィルターを清掃して下さい。
・作業は、ホコリやチリのない清潔な場所で行って下さい。
・ガソリンやシンナー等の引火性の強い洗浄油は、危険ですから使用しないで下さい。

①燃料タンクの中のガソリンを全て抜いて下さい。
②燃料タンク側のホースクランプ及び燃料チューブを外して下さい。
③燃料タンク出口に挿入されている燃料フィルターを取り出して下さい。
④燃料タンク内及び燃料フィルターに付着しているゴミを清掃して下さい。
⑤元の通りに確実に組みつけて下さい。

## そのほかの点検

⚠ 注意：

・各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認して下さい。
・各注油箇所に規定のオイルが規定量入っているか又、オイルの漏れはないか点検して下さい。
・もしオイル漏れが確認できた場合には、お買い上げの販売店へご相談下さい。
・オイル漏れの状態で使い続けると危険なばかりか、本機の破損にもつながります。
・各オイルの量の確認は、必ずエンジンを停止し、本機を水平にして行って下さい。
・本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べて下さい。
・各部を十分に馴染ませる為、最初の２～３時間は無理な作業はさけて下さい。
・作業後の手入れ、及び定期的な点検も忘れずに行って下さい。

《仕　様》(参考数値)

| | | |
|---|---|---|
| 名　称 | | ローンモアー |
| 型　式 | | ZLM530α |
| 全長×全幅×前高(㎜) | | 1,575×564×1,010 |
| 刈　幅(㎜) | | 530 |
| 刈　高(㎜) | | 14～50　(スペーサー着用時 10～46) |
| ナイフ | | バーナイフ |
| 重量（kg） | | 50 |
| バック容量(ℓ) | | 70 |
| 走行クラッチ方式 | | デッドマン式噛み合いクラッチ |
| 作業クラッチ方式 | | デッドマン式ブレーキ付単板クラッチ |
| 速度（Km/h） | | ①2.9　②4.2 |
| ミッションオイル(ℓ) | | 0.07(#90) |
| エンジン | 名　称 | ホンダ |
| | 型　式 | GXV160 |
| | 最大出力(PS/RPM) | 5.5/3,600 |
| | 始動方式 | リコイルスタータ |
| | 点火プラグ | W16EP-U,W16EPR-U(ND)/BPR5ES, BP5S(NGK) |
| | タンク容量(ℓ) | 2.0 |
| | オイル容量(ℓ) | 0.65 |

※本仕様は改良のため予告なく変更する事があります。

## 《機械を他人に貸すときは…》

所有者以外の人には使用させないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸すときには、取扱い方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導して下さい。

機械と一緒に「取扱説明書」も貸して上げて下さい。

親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりするとせっかくの親切があだとなってしまいます。

《工具袋・同梱品明細》

| No. | 部　品　名 | 規格・寸法 | 個数 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1. | 取扱説明書 | | 1 | |
| 2. | 品質保証書 | | 1 | |
| 3. | プラグレンチ | ２１ｍｍ | 1 | |
| 4. | プラグレンチバー | ６×１２０ | 1 | |
| 5. | ノブナット | Ｍ８ | 2 | |
| 6. | 角根丸頭ボルト | Ｍ８×４０ | 2 | |
| 7. | 六角ボルト | Ｍ８×２５（8T） | 2 | |
| 8. | 六角袋ナット | Ｍ８ | 4 | |
| 9. | バネ座金 | ８ | 4 | |
| 10. | 平座金８ | ８ | 6 | |
| 11. | 両口スパナ | 10×12 | 1 | |
| 12. | ゴーグル | 防曇タイプ | 1 | 保護具 |
| 13. | スペーサー | 厚さ４ｍｍ | 1 | 刈高調整用（低刈用） |

《消耗品明細》

| No. | 部　品　名 | 部　品　番　号 | 個数/台 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1. | ナイフ 530 | 80-1020-821-10 | 1 | |
| 2. | ナイフ取付けボルト | 89-1254-100252 | 2 | 座付きﾎﾞﾙﾄ M10×1.25×25 |
| 3. | ブレードワイヤ | 0278-71100 | 1 | |
| 4. | 走行ワイヤ | 83-1020-932-00 | 1 | |
| 5. | スロットルワイヤ（H） | 83-1020-955-00 | 1 | |
| 6. | 走行チェンジワイヤ | 83-1020-936-00 | 1 | |
| 7. | 収草バック〔B〕 | 80-1022-8560-00 | 1 | |
| 8. | 防塵カバー | 0230-71400 | 1 | |
| 9. | 危険マーク② | 83-1484-921-00 | 2 | |
| 10. | 〃　　J | 83-1516-918-00 | 1 | |
| 11. | 警告マーク | 0253-72500 | 1 | |
| 12. | 注意マーク① | 83-1516-915-00 | 1 | 安全のために… |
| 13. | 〃 | 83-1516-908-00 | 1 | このカバーなし… |
| 14. | 〃 | 0209-90200 | 1 | |
| 15. | 〃 | 83-1020-929-00 | 1 | 事故防止… |
| 16. | 〃 | 80-1020-928-00 | 1 | プラグキャップ |

# 《定期自主点検表》

★点検や整備を怠ると事故の原因となることがあります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期自主点検表」を参考に点検を行って下さい。

★年次点検は１年に１回、月例点検は１ヶ月に１回、仕業点検は作業を開始する前に毎日点検を行うようにして下さい。

| 項目 | | 点検内容 | | 点検実施時期 仕業 | 月例 | 年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 原動機 | 本体 | ①かかり具合、異音 | 始動の際、容易に起動するか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ②回転数と加速の状態 | 回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ③排気の状態及びガス漏れ | 排気色、排気臭及び排気音は正常か。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ④エアークリーナーの損傷、緩み、汚れ | 損傷なく、取付け部に緩み、著しい汚れはないか。 | | ○ | ○ |
| | | ⑤シリンダーヘッドと各マニホールド締付け部の緩み ＊ | ガス漏れ、亀裂、著しい腐食はないか。（正常締付けトルクで緩みはないか。） | | | ○ |
| | ＊ | ⑥弁すきま | （正規のすき間であるか。） | | | ○ |
| | ＊ | ⑦圧縮圧力 | （正規の圧縮圧力であるか。） | | | ○ |
| | | ⑧エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの緩み | エンジンベースに亀裂、変形はないか。ボルト・ナットに緩みはないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | 潤滑装置 | ①油量、汚れ | オイルの量は適切か。オイルに汚れ、水・金属等の混入はないか | ○ | ○ | ○ |
| | | ②油漏れ | オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | 燃料装置 | ①燃料漏れ | 燃料の漏れはないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ②燃料フィルターの詰まり | 著しい汚れ、変形、目詰まりはないか。 | | ○ | ○ |
| | 電気装置 | ①電気配線の接続部の緩み、損傷 | ハーネス接続は適切か、又緩み、損傷はないか。 | | ○ | ○ |
| 伝達装置等 | ユニバーサルジョイント | ①異音、異常発熱及び作動 | 作動に異常はないか、又異音、異常発熱はないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ②損傷、汚れ | 亀裂、損傷、著しい汚れはないか | | ○ | ○ |
| | ミッション | ①異音、異常発熱及び作動 | 作動に異常はないか、又異音、異常発熱はないか。 | | ○ | ○ |
| | | ②油量、汚れ | オイルの量は適切か、又著しい汚れはないか。 | | | ○ |
| | | ③油漏れ | オイルシール、パッキン部に油漏れはないか。 | ○ | ○ | ○ |
| 車体 | 車体 | ①亀裂、変形及び取付けボルト・ナットの緩み、脱落 | フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの緩み、脱落はないか。 | | ○ | ○ |
| | カバー | ②亀裂、変形、腐食 | 亀裂、変形、腐食はないか。 | | | ○ |
| | レバー及びワイヤー | ①レバー及びワイヤー類の損傷、緩み、ガタ、割ピンの欠損 | 作動及び取付け状態。著しい損傷及び緩み、ガタ、脱落はないか | ○ | ○ | ○ |
| 走行装置等 | タイヤ（ホイール） | ①亀裂、損傷及び偏摩耗 | 亀裂、損傷及び偏摩耗はないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ②金属片、石その他の異物の噛み込み | 異物の噛み込みはないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ③ボルト・ナットの緩み、脱落 | ボルト・ナットの緩み、脱落はないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ④ガタ、異音 | 取付け部に異音、ガタはないか。 | | ○ | ○ |
| | | | | | | |
| | 表示マーク | ①損傷 | 注意・危険・指示銘板が損傷なく取り付けられているか。 | | ○ | ○ |

※　＊印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

## 《エンジン定期点検表》

エンジンを正常に働かせ、寿命を長くするためには、定期点検が必要です。
下記の表に従い、点検を実施して下さい。

| 点検項目 | 時期 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 毎回 | 25時間毎 | 50時間毎 | 100時間毎 | 300時間毎 |
| エンジンオイルの点検・追加 | ○ | | | | |
| ボルト、ナットの緩み・欠落 | ○ | | | | |
| 燃料、オイルの漏れ | ○ | | | | |
| 空気吸入部スクリーンの点検 | ○ | | | | |
| ｽｲｯﾁ、ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ の掃除 | ○ | | | | |
| ② ｴｱｸﾘｰﾅｰ、ﾌｫｰﾑﾌｨﾙﾀｰ の掃除 | | ○ | | | |
| ボルト、ナットの締め直し | | ○ | | | |
| 燃料フィルターの掃除 | | | ○ | | |
| ①エンジンオイルの交換 | | | ○ | | |
| ②ｴｱｸﾘｰﾅｰﾍﾟｰﾊﾟｰｴﾚﾒﾝﾄの掃除 | | | | ○ | |
| ｽﾊﾟｰｸﾌﾟﾗｸﾞ の掃除、ｷｬｯﾌﾟ の調整 | | | | ○ | |
| 燃焼室の掃除 | | | | ○ | |
| ③ ﾊﾞﾙﾌﾞｸﾘｱﾗﾝｽ の点検・調整 | | | | ○ | |
| ② ｴｱｸﾘｰﾅｰﾍﾟｰﾊﾟｰｴﾚﾒﾝﾄ の交換 | | | | | ○ |
| ② ｼﾘﾝﾀﾞｰ及びﾍｯﾄﾞﾌｨﾝの埃・ゴミの除去 | | | | | ○ |

①：はじめは、５時間運転後に行いその後は表に従う。
②：埃の激しい環境では、もっと頻繁に行う。
③：この作業を行うには、内燃機関に関する充分な技術と工具が必要です。
詳しくは、販売店にご相談ください。

# ≪刈り取り性能診断≫

もし次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参考にして適切な処置をして下さい

| 現　象 | 原　因 | 処　置 |
|---|---|---|
| 刈草がうまく放出されない | 草が湿っている | 草が乾燥してから作業する |
| | 草が長い | 刈高さを高くして,二度刈りをする |
| | 刈高さが低い | 刈高さを高くする |
| | エンジンの回転数が低い | 最高回転数にする |
| | 作業速度が速い | 作業速度を落とす |
| 刈残しが出る | 作業速度が速い | 作業速度を落とす |
| | エンジンの回転数が低い | 最高回転数にする |
| | 草が長い | 二度刈りをする |
| | ナイフの磨耗、破損 | 新しいナイフと交換する |
| | ナイフカバー内面への草の堆積 | ナイフカバー内面をきれいに清掃する |
| 土削りを発生する | 刈高さが低い | 刈高さを高くする |
| | 旋回速度が速い | 旋回速度を落とす |
| | 地形にうねりがある | 草刈作業のパターン(刈取方向等)を変える |
| | 地形に起伏(凹凸)が多い | 刈高を高くする |
| | ナイフ曲がり | 新しいナイフに交換する |
| ナイフがスリップする | ナイフワイヤーが伸びている | ナイフワイヤーが調整する |
| | ナイフカバー内に草が詰まっている | 詰まった草を取り外し、ナイフカバー内をきれいにする |
| | BBCのクラッチが磨耗している | BBCを交換する |
| | | |
| 振動が大きい | ナイフバランスが悪い | ナイフを修正する |
| | ナイフの磨耗 | 新しいナイフに交換する |
| | BBCのベアリングが破損している | BBCを交換する |
| | エンジンPTO軸が曲がっている | エンジンPTO軸を交換する |
| | | |
| 刈取作業負荷が大きい | ナイフバランスが悪い | 新しいナイフに交換するか、ナイフを修正する |
| | エンジン回転が低い | エンジン回転数を最高にする<br>(エンジン回転数をチェックする) |
| | 作業速度が速い | 作業速度を落とす |
| | ナイフの回転軸回りに草が堆積<br>あるいは巻きついている | ナイフをきれいに清掃する |
| | 草が長い | 刈高さを高くして,二度刈りをする |
| | 刈高さが低い | 刈高さを高くする |

※わからない場合は、お買い上げいただきました販売店に ご相談下さい

## 《エンジンの不調とその処理方法》

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をして下さい。

| 現　　象 | 原　　因 | 処　　置 |
|---|---|---|
| 始動困難な場合<br>（始動しない場合） | スロットルレバーが「始動」の位置でない。 | スロットルレバーを「始動」の位置にする。 |
| | チョークﾚﾊﾞｰを引いていない。 | エンジン冷却時、チョークﾚﾊﾞｰを 位置にする。 |
| | 燃料が流れない。 | 燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除去する。<br>燃料コックのストレーナを取り外し、カップ内の沈殿物を除去するとともに付着しているゴミを取り除く。 |
| | 燃料送油系統に、空気や水が混入している。 | 異物を取り除き、締付バンドを点検し、損傷があれば新品と交換する。 |
| | 寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジンの回転が重い。 | 気温によってオイルを使い分けする。 |
| | 点火コイル、又はユニットの不良。 | ＊点火コイル、又はユニットを交換する。 |
| | 点火プラグの不調。 | 点火プラグの電極の隙間を点検し、調整する。<br>新しい点火プラグと交換する。 |
| 出力不足の場合 | 燃料不足。 | 燃料を補給する。 |
| | エアクリーナの目詰まり。 | エレメントを清掃する。 |
| | 燃料の質が悪い。 | 良質の燃料と交換する。 |
| | チョークが完全に開いていない。 | チョークﾚﾊﾞｰを完全に戻す。 位置にする。 |
| | 冷却系統が目詰まりをしている。 | リコイルスタータ周辺を清掃する。 |
| 突然停止した場合 | 燃料不足。 | 燃料を補給する。 |
| | 燃料コックが閉じている。 | 燃料コックを開く。 |
| 排気色が異常に黒い場合 | 燃料の質が悪い。 | 良質の燃料と交換する。 |
| | エンジンオイルの入れすぎ。 | 正規のオイル量にする。 |
| マフラから黒煙が出て出力が低下した場合 | エアクリーナエレメントの目詰まり。 | エレメントを清掃する。 |
| | チョークが完全に開いていない。 | チョークﾚﾊﾞｰを完全に戻す。 位置にする。 |
| マフラから青白煙が出た場合 | エンジンオイルの入れすぎ。 | 正規のオイル量にする。 |
| | シリンダ・ピストンリングの摩耗。 | ＊リングを交換する。 |
| エンジン回転が安定しない（上昇しない） | チョークが完全に開いていない。 | チョークﾚﾊﾞｰを完全に戻す。 位置にする。 |
| | 燃料の質が悪い。 | 良質の燃料と交換する。 |
| しばらくするとエンストする。 | 点火コイルの不良。 | ＊点火コイルを交換する。 |
| | 燃料フィルタの目詰まり。 | 燃料フィルタを清掃する。 |
| 排気に刺激臭がある。 | 燃料の質が悪い。 | 良質の燃料と交換する。 |

※＊印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

※ わからない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい。

ZENOAH


# 株式会社 ゼノア

〒350-1192 埼玉県川越市南台 1-9
カスタマサポートグループ TEL (049)243-1110
http://www.zenoah.co.jp/

| | | |
|---|---|---|
| 北海道支店 | TEL (0133) 73-0355 | FAX(0133) 73-0399 |
| 東北支店 | TEL (022) 235-4621 | FAX (022) 232-7861 |
| 東京支店 | TEL (049) 243-6380 | FAX (049) 243-6381 |
| 中部支店 | TEL (052) 701-8011 | FAX (052) 701-8151 |
| 大阪支店 | TEL (06) 6864-0065 | FAX (06) 6862-2690 |
| 西部支店 | TEL (086) 241-3632 | FAX (086) 241-3873 |
| 九州支店 | TEL (092) 504-6261 | FAX (092) 504-6271 |
| 鹿児島営業所 | TEL (0995) 63-1779 | FAX (0995) 63-1509 |